

こんぺいとう通信

2021

6

教室のみなさん、こんにちは (^^)

横浜市でも5月からコロナワクチンの予防接種が始まりましたが、接種の予約を取るのが至難の業だということで世の中は大騒ぎですね。かく言う私も、うちの母親をはじめ教室の生徒さんや一般の方からも予約の依頼を受けて大わらわ。予約を取る作業そのものはたいして難しいことはないのですが、なにしろ大勢の人たちが一斉に押し寄せるわけですから電話同様ネットも接続できないという状況になるのは当然のこと。多少のコツはあるものの、パソコンの腕前はあまり関係はありませんでした。「いろはセンサーならきっとなんとかしてくれる(キラリン)」と期待してくださった方には申し訳ないのですが…。

-
それにしても、教室に通っていらっしゃるようなある程度パソコンやスマホになじみのある方ならともかく、一般のご年配の方がインターネットで予約を取るという作業は、私から見てもなかなかハードルが高い作業だと感じました。

今回、パソコンやスマホの実際の予約画面を生徒さんと一緒に確認しながら、いろいろとお話をしましたが、その中で皆さん揃って引っ掛かりやすかった箇所がありましたので、それについて解説してみたいと思います。

-
「予約のログイン画面までは行ったのだけど、その先にうまく進めなかった」という方がつまづいた箇所は2つありました。一つは「パスワード」の入力、もう一つはメールアドレスを使った「本人確認」の仕組みです。今回はパスワードについてお話ししましょう。パスワード入力欄、ここには何を入力すればよいのでしょうか？お話を伺うと、皆さん様々なパスワードを入力されたようです。一番多かったのが「グーグルのパスワード」や「アップルIDのパスワード」を入力したという間違い。これは無理も

ないかもしれません。教室でパソコンやスマホの作業をする際にもパスワードを入れなければならない場面がたびたび出てきます。Gメールを利用する際にはグーグルのパスワードを入れるし、iPhoneをご利用であればアップルIDのパスワードを利用します。そんなことが度重なるうちに、いつしか「パスワード=グーグルのパスワード(またはアップルやマイクロソフトアカウントのパスワード)」というように思い込んでしまうのかもしれませんが、けれどもここで、しっかりと確認しておきましょう。インターネットで何かしらのサービスを利用する場合には、**アカウント**というものが必要になります。アカウントというのは**銀行口座**のようなものです。銀行口座を利用するためには2つの情報が必要です。一つは「あなたの口座である」ということを区別するための「口座番号」、そしてもう一つは「あなたが本人であることを証明する」ための「通帳印または暗証番号」です。複数の銀行口座を持っている場合、銀行によって口座番号や暗証番号は違っていると思います(暗証番号は共通にしている方もいらっしゃるでしょう)。グーグルのサービスを使うときにはグーグルのパスワードを入れるように、ワクチン接種の予約サービスを利用するには、そのためのパスワードを入力する必要があったのです。

ホームページのログイン画面には次のように記載があります。「**接種券の接種券番号または予約番号と生年月日(西暦 8 桁)でログインします。例) 1950年12月1日生まれの方のパスワード: 19501201**」つまりパスワードの欄には、ご自分の生年月日を入力するのが正解だったわけです。落ち着いて読めば容易にわかることかもしれませんが、慣れないインターネットでの予約とあっては慌ててしまいますよね。サービスを提供する側がもう少し丁寧な方法を考えてくれればいいのになあと感じる案件でしたね。ともあれ、皆さん無事に接種が受けられますように。